

鑄込みの方法



①道具は以上のものを用意します。



②同時に水をはったバケツを用意して手や泥がついた道具を洗います。



③泥しよう(でいしよう)をよく混ぜます。やわらかくすることが目的です。混ぜる前は少々固いですが、まぜていくうちにだんだんやわらかくなっていきます。



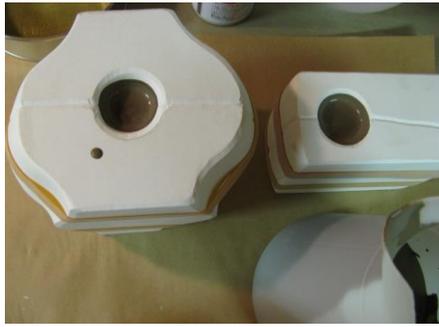
④フルイでこします。



⑤石膏をゴムで固定します。



⑥こした泥しようを穴へ流しこみます。2リットルのポットに泥しようを移しかえたほうが流し込みやすいです。



- ⑦15分程度放置します。
 同じ型に2度目に鋳込むときは
 型に水分が含まれているため
 放置時間を長くします。
 なお、放置時間が長いほど厚く着肉します。



- ⑧このように泥しょうがへこんできますので
 定期的に注ぎ足します。



- ⑧時間になったら泥しょうを捨てます。
 写真ではふるいを通して泥しょうを
 捨てています。



- ⑨バットの上にふせて置きます。
 30分から1時間くらい内側をさわっても
 泥しょうが手につかない程度まで放置
 します。



- ⑩型からはずします。
 放置時間を長くて、粘土がある程度
 固くなってからのほうがはずしやす
 くなります。
 何回も鋳込むとだんだんはずれずら
 くなります。最悪翌日にはずしまし
 ょう。

コンプレッサーがあるならば、空気をすきまに
 送り込むと外れやすくなります。



- ⑪余分を金ヘラでカットします。



⑫バリを金ヘラでカットしたりなでたりしてある程度整えます。



⑬ぬれたスポンジを固くしぼってつなぎ目をきれいにします。



⑭完成です。

後始末の注意点



①型の内側が生命線です。型はやわらかいので慎重に取り扱ってください。粘土の汚れを取り除くときは粘土でくっつけて取り除きます。内側をきれいにするにはなるべくスポンジを使わないようにします。



②外側の汚れは固くしぼったスポンジを使っても良いです。



- ③使用後はよく乾燥させます。
ただストーブの上に置くなど無理な乾燥は避けます。50度以上になると石こう型はもろくなります。



- ④粘土のよぶんは水につけておけばやわらかくなります。
ただ、その粘土は泥しようバケツに戻さないでください。



- ⑤バケツのふちについた汚れはふたを閉める前に必ずスポンジやゴムへらで落としてください。その部分が固くなり、泥しようが不均一になります。



- ⑥保管する前に泥しようの表面に水をはります。
こうすることで泥しようの水分に変化がないようにします。

次回使用するときには、表面の水分をスポンジで吸い取って使用します。